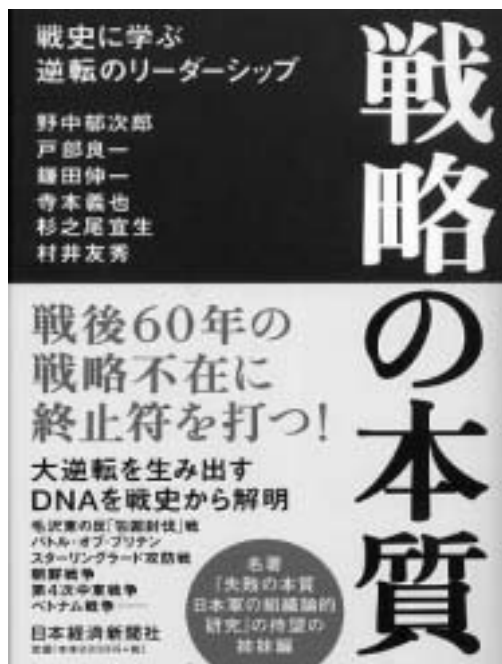




## 教官著書の紹介



戦略とは選択である。『戦略の本質』において、われわれが試みたことは、戦略事象の概念空間を明らかにし、そこに見られる論理とメカニズムを確認しようとすることにあった。突きつめて言えば、戦略の概念空間は、水平的次元における主体間の相互作用の因果連鎖すなわち彼我の交互行為の展開と、垂直的次元における五つのレベルの展開すなわちグランド・ストラテジー、戦域、作戦、戦術、テクノロジーの重層構造によって構成される「場」と捉えることができる。

したがって、戦略の課題は、水平的次元と垂直的次元によって構成されるこのような概念空間のダイナミクスと必然の論理を洞察し、それを踏まえて主体的な選択を行なうということになる。このような意味で、戦略とは知識創造であり、戦略とは意図的な帰結を

### 『戦略の本質』

日本経済新聞社（2005）

著者 公共政策学科 教授 鎌田 伸一

もたらす能力であり、そして戦略とはパワー創造なのだ。

本書においては第2次世界大戦以降の、軍事戦略のターニング・ポイントともいふべき事例のいくつかを俎上に載せた。21世紀初頭の現在、戦略の概念空間の中央に位置する軍事戦略(戦域、作戦、戦術レベル)を巡る現象は、RMA、あるいはトランスフォーメーションという表現でその変化と混迷ぶりが表現されている。

軍事戦略のダイナミクスは、テクノロジー・レベル（例えば IT 技術の進歩）がトリガーになるとしても、最終的にグランド・ストラテジーのレベルでのソリューションこそが課題となる。2001年の9.11は、20世紀における1945年の第2次世界大戦の終焉、1989年の冷戦の終焉に比肩しうるグランド・ストラテジーのターニング・ポイントに他ならない（Freedman, 2006）。

とするならば、わが国の戦略発想の欠如、戦略不在という繰り返しなされる自問自答は、何を意味しているのだろうか。それはまさに、現前の目に見える現象の背後にあるものを見ようとする知の方法の不在、見えないものを



平成7年1月に生じた阪神・淡路大震災で、自衛隊はその発足以来、最大規模の災害派遣を実施した。さらに同年3月、地下鉄サリン事件においても、災害派遣を実施した。これらの教訓から、自衛隊は、大規模自然災害やテロリズムによる災害に際して、積極的に災害救援活動を行うことが重要であると広く国民に認識されるに至った。「平成8年度以降に係る防衛計画の大綱」では、防衛力の役割として、自衛隊の伝統的な任務である「我が国の防衛」の外に、新たに「大規模災害等各種の事態への対応」という役割が追加されている。この項目は、平時において自衛隊の能力を国民生活のために積極的に活用すべきという国民の期待を受けたものである。

内閣府大臣官房政府広報室は、「自衛隊・防衛問題に関する世論調査」を定期的に行っている。調査結果をみると、国民は自衛隊の能力を平時に災害派遣や民生協力の分野で活用することにより積極的に活用するといえる。

このような民意と防衛行政は、乖離し得ない。

そもそも、国民は、行政機関が執行する行政行為の主な客体(対象)であるのみならず、納税者である。近年、公務員の不祥事が後を絶たないが、「すべて公務員は、全体の奉仕者であつて、一部の奉仕者ではない。」(日本国憲法第15条第2項)。「自衛隊員は、国民全体の奉仕者であり、国民の一部に対してのみ奉仕者ではないことを自覚し、職務上知り

得た情報について国民の一部に対してのみ有利な取扱いをする等国民に対し不当な差別的取扱いをしてはならず、常に公正な職務の執行に当たらなければならない。」(自衛隊員倫理法第3条第1項)。

そこで本書では、「公益」を、国民、地域社会の視点からみた社会公共の利益と定義し、「公益」と防衛行政の関係を論考する。公益とは、社会公共の利益であり、私人の利益の集合体(利己的な私益の総体)とは異なる。すなわち、「公益」という概念は、国民、地域社会の側に立脚し、防衛行政と対比され、防衛行政をチェックする役割が期待されている。

本書の構成は、まず第1章「自衛隊の管理・運用」において、「公益」という概念で検討する対象となる自衛隊の実態を概説する。

第2章「国民生活と自衛隊」においては、自衛隊の諸活動が有する公益性を分析する。採り上げる活動の順番は、平時から各種事態を経て有事に至る国内の状況の変化におおむね対応している。さらにこの順番は、自衛隊の諸活動に伴い、国民生活の制約が次第に強くなる傾向に合致する。自衛隊に対する「公益」の期待を明らかにするためには、国民の意識を分析する必要がある、世論調査を活用する。

第3章「防衛行政と公益」では、基地対策、情報公開、個人情報保護について採り上げ、防衛負担の公平性や公正で民主的な防衛行政を担保するツールについて、考察する。

本書の記述は、基本的に平成 17 年 7 月 31 日現在の法令に準拠している。しかしながら、平成 17 年法律第 88 号により防衛庁設置法等が大幅に改正された。読者の利便性を考慮し、改正規定（自衛隊の統合運用体制の強化、弾

道ミサイル等に対する体制整備、情報部門の改編等の措置）を織り込んだ記述としている。

本書が、自衛隊の活動と防衛行政の円滑な運営にとって不可欠な国民の理解と支援の態様を理解する一助になれば、幸いである。

## 教官の推薦図書

### 『ウェブ進化論』

筑摩書房（2006）

機能材料工学科 助手 青野祐美

情報化社会の今日、いまや仕事はもちろん、遊びに行く場所や最新の音楽、映画などの情報収集手段としてインターネットは日常生活に欠かせない道具となっています。一度パソコンを立ち上げて知りたいことを入力するだけで、日本のみならず、世界中から情報を得ることができます。そのため学校の課題やレポートもインターネット任せのこともあるようで、教える側としては少しもの悲しさを覚えますが、「グーグル脳」という言葉ができたように欲しい情報を得るために検索エンジンにどのような単語を入力するのかもその人の技量と言えるのでしょう。「グーグル脳」のグーグルとは言わずと知れたインターネット検索エンジンおよびその運営会社のことですが、本書ではこのグーグルやネット書店のアマゾンを取りインターネットの成り立ちから今後どのような方向へ進んでいくのかがアメリカ、シリコンバレー在住の著者により論じられています。

グーグルなどを使うことにより知りたい

情報が瞬時に検索できることはすばらしいことではありますが、その一方で検索エンジンの運営者は、相手が何を知りたがっていることを知ることができ、検索結果を統計化することで現在のトレンドやニュース、人々の関心度を割り出すことができます。またインターネットを使って、あるホームページにアクセスするということは、ホームページの管理者側にとっては誰が自分のところにアクセスしたかという情報が得られますから、自分の情報も相手に知らせていることと同じことです。そのためインターネットを悪用した犯罪が年々増えています。またウィニーなどのファイル共有ソフトによる情報流出もインターネットを介して行われます。防衛大学校においても情報流出防止のための通達が出たことは記憶に新しいことでしょう。

様々な危険性を孕みながらも普及し続けるインターネットですが、危険防止やコストの面から、本書の表現を用いると「あちら側」の世界にシステムを構築することが主流にな

る時代へと進んでいるようです。「あちら側」の世界とはインターネットの中のバーチャルな世界を指し、これからは情報を「あちら側」に置く時代になるということです。その例として電子メールが取り上げられています。現在のところ、私たちが所有しているパソコンのウイルス感染を防ぐためには、各自ウイルス対策ソフトをインストールして対処していますが、ソフトやOSを最新に保ちなさいといくら注意喚起したところでその作業を行うかどうか、いつ行うかはパソコンの持ち主それぞれに任されています。それに対し、本書ではこれからのウイルス対策として、ネット上でメールの管理を行うグーグルの手法を紹介しています。メールを各自のパソコンに取り込

約9%の増加、貸出冊数は約17%の増加となりました。また、入館者数は3学年が一番多く、むことなくネット上で管理することによって、ウイルスの検知や駆除などを専門家であるネットの管理者が一括して行うことにより、日々進化するウイルスに対抗しようというのです。この場合、ネット上のメール管理者への信頼が不可欠ではありますが、ここに人を介在させないことによりグーグルは安全性、機密保持を保証していると本書にはあります。インターネットはこれからどこまで発展していくのだろうかと考えさせられる一冊です。

## ~~~~~ 図書館の利用について ~~~~~

### 図書館事務室

平成17年度の本科学生の入館者数は約37,300人で、貸出冊数は約11,700冊でした。学年別の数字と前年度(平成16年度)との比較をすると、(表)のとおりになります。

4学年が一番少ないものの、貸出密度は学年があがるにつれて増加し、なかでも4学年が突出していることがわかりました。これは卒業論文などの作成にあたって、多くの図書を借りているのではないかと思います。

情報が溢れているこの世の中で、限られた時間の中で、自分の欲しい情報を短時間で手に入れることも、ますます重要になってきます。これらの情報(図書や文献)を効率よく検索するための方法を、今回は紹介しようと思います。図書館内の「情報検索コーナー」の検索端末4台と、CD-ROM検索用端末の2台を使用します。まず、検索端末の4台で防衛

項目	年度	1学年	2学年	3学年	4学年	合計
入館者数	17年	8,707	9,144	12,070	7,354	37,275
	16年	8,875	8,731	10,334	6,204	34,144
貸出冊数	17年	940	1,843	4,365	4,520	11,668
	16年	783	2,128	3,232	3,827	9,970
貸出密度*	17年	10.8%	20.2%	36.2%	61.5%	-
	16年	8.8%	24.3%	31.3%	61.7%	-

\* 貸出密度...図書館活動を測定、評価する指標の一つ。1

年間の貸出冊数を1年間の入館者数で割ったもの。

この表を見ると、平成17年度の入館者数は

大学校内にある図書が、どこに配架されているのかを調べることができます。校内専用WEBサイトの図書館から目録検索をクリックすると、キーワードを入力する画面になりますので、ここで皆さんが検索したいキーワードを入力すると、一致した図書の情報（出版地・出版年・出版社等）と配架場所や請求記号がでてきます。配架場所が図書館であれば、該当する請求記号の書架に行けば、配架されていますので、閲覧・貸出が可能になっています。もし、図書館になければ各学科・教育室より借用することも可能ですので、カウンター職員に申し出てください。

CD-ROM 検索用端末では「雑誌記事索引」「新聞記事索引」「年鑑類」「辞典類」「抄録・索引誌」を利用することができます。雑誌記事索引では『雑誌記事索引(国会図書館)』は国内刊行の学術雑誌を中心に約 10,000 誌の論文(記事)を検索でき、『大宅壮一文庫雑誌記事検索』は主に週刊誌などの一般雑誌、約 2,000 誌を対象に検索できます。新聞記事索引では『読売新聞(明治・大正・昭和(戦前))』『朝日新聞(1926/12-1934/12・1998-2002)』『日本経済新聞(1998-2002)』の新聞記事を検索

できます。年鑑類では日本の経済・社会を中心に広範な分野から集めた多数のデータを収録してある『日本国勢図会(2001/02・2002/03)』や1冊で科学の全分野を網羅するデータブック『理科年表(2001)』などを利用できます。辞典類では日本人及び外国人の人名録である『CD-人物レファレンス事典(日本編/西洋・東洋編[古代~20世紀])』や科学、医学、工学、農学、化学、ビジネスなどの分野で使われている専門用語を収録した『180万語対訳大辞典』等が利用できます。抄録・索引誌では世界の科学技術分野の主要な文献資料を国内外から収集した『科学技術文献速報(物理・応用物理編 2001/機械工学編 2001)』や人文・社会科学分野の各種論文を探すレファレンスツールとして『CD-論文内容細目総覧 1945-1998』を利用できます。こちらで、検索した記事・論文等が図書館になければ、『レファレンスカウンター』を通じて所蔵している他大学図書館等に、複写あるいは貸借の手続きをとることも可能ですので、利用していただきたいと思います。ぜひこれらのツールを利用して、皆さんの学習及び卒業論文等の作成に役に立ててください。

## ~~~~~ お知らせ ~~~~~

### 「第1回図書館長表彰」の紹介

平成18年6月27日(火)1640から図書館会議室において、図書館長表彰授与式が図書館長はじめ関係職員立会いの下、挙行

された。

この表彰は、平素より本科学生の学習及び図書館利用の促進を願う趣旨のもので、

平成18年度より3ヶ月毎を対象に図書  
の最多借受者を表彰することになった。第1  
回表彰においては、4月から6月までの間  
の最多借受者に対して表彰された。

当日は、この表彰式を祝うかのように梅雨  
の中休みの好天に恵まれ明るい雰囲気の中、  
和やかに執り行われた。

今回の受賞者は、

第1位

4学年 宗像学生(地球海洋学科:第321小隊)

第2位

3学年 佐藤学生(人間文化学科:第322小隊)

第3位

4学年 荒木学生(人間文化学科:第332小隊)

以上3名の学生に授与された。

今後、学生諸君の益々の図書館利用を期待  
しております。

図書館職員一同



記念写真

上段左から 事務長 図書館長 事務長補佐

下段左から 佐藤学生 宗像学生 荒木学生

(担当: 図書館 飯島技官)

---

N A D A L Bulletin Vol.21, No.1

防衛大学校図書館だより 2006.9.

---

発行所及び発行人

〒239-8686 神奈川県横須賀市走水 1-10-20

防衛大学校図書館 Tel.046-841-3810

図書館長 影山 好一郎

---

編集委員

中 村 一 成 (体育学教育室)

阿 部 洋 (機能材料工学科)

森 博 史 (前:国防論教育室)

田 中 誠 (国防論教育室)

編集庶務

石 井 靖 孫 (図書館事務室)

飯 島 幸 夫 (図書館事務室)

---

印刷所

(株)文天閣 .025-272-0123

〒950-0801 新潟市津島屋 7-20

---